

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年五月度 入選句（投稿総数三百七十四句・小中学投句数二十七句）

特選

選者 高木 恵理

ランドセルあたらしいいままはるおわり 大垣市 内山 友梨(小二)

小学校の入学式。初めての先生。初めての友達。初めての教室。どの子もきらきら輝いて入学式を迎えます。今年には新型コロナウイルスの感染を防ぐため、学校が休校になり、しばらくの間、ランドセルを背負うことができませんでしたね。それでも作者は学校が始まるのを心待ちにしていたことでしょう。これから、ランドセルにたくさんのお出をためていてくださいね。

母の日に内しよで作るおくりもの 大垣市 炭電 玲亜(小六)

内緒で「おくりもの」を準備していたところがよいですね。しかも、何かを買ってきたのではなく、自分で作っているところがさらに、素晴らしい。お母さんは、あなたの成長を心から喜んでいふことでしょうかね。飾られた言葉ではなく、簡単な言葉で表現していることで、作者の純粋な思いが際立つ俳句です。

散ってなお川面の枝に寄るさくら 大垣市 平田 ひなの(中三)

散る桜。ゆつたりと川に流れていく桜。そして、川面に枝がしだれている大きな桜の木。何か映画のワンシーンのような俳句ですね。しかも、散ってしまった桜は、また枝の方へ近寄っていく。そうか、潔く散ってゆくと感じていた桜も、やはり桜の木に未練があるのか。大きな発見のある俳句です。

秀逸

バツトふるからぶりしたよなつのかぜ 大垣市 内山 友梨(小一)

ははの日にぼくのおにぎりとおき 大垣市 伊藤 晟 冴(小二)

バツトふる夏の空へととんでゆく 大垣市 内山 隼(小三)

めだかとりおよぐのはやいたいへんだ 大垣市 千足 りょう(小四)

校庭でみんなの笑顔待つ桜 大垣市 平田 ひなの(中三)

たねをうえわすれたころにめがでたよ 大垣市 赤しお ひろむ(小二)

入選

ともだちとこうえんいつてはるのかぜ 大垣市 内山 友梨(小一)

花は葉にはんそでたんパンはやきがえ 大垣市 伊藤 晟 冴(小二)

大むかでママにふまれて春おわる 大垣市 内山 隼(小三)

水門の装うさくら誇る鯉 大垣市 平田 ひなの(中三)

選者吟

まばたきを忘れてしまふ蛍狩

恵理